

平成29年度

# 事業報告書

旭川市工芸センター

# 平成 29 年度 事業報告書

## 目次

1	工芸センターの概要	1P
2	技術指導・各種相談	4P
3	機械設備使用・試験分析業務	4P
4	研修会・講習会・講演会	5P
5	販売促進支援事業	6P
6	情報収集・提供事業	6P
7	人材育成・販路開拓・製品開発支援事業	7P
8	受入研修	7P
9	職員派遣	7P
10	講師・審査員・委員等派遣	7P
11	その他支援	7P
○	旭川工芸技術等継承事業	8P
○	ものづくりサマーキャンプ	10P
○	親子木工体験教室	11P
○	窯業講習会	11P
○	窯業技術研修会	12P
○	道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発	12P
○	国際家具デザインフェア旭川(IFDA)2017	13P
○	旭川クラフト展 2017	13P
○	21st 旭川陶芸フェスティバル	14P
○	技能五輪国際大会	15P

# 1 工芸センターの概要

当所は、旭川市の主要産業である木工芸及び窯業の生産技術向上並びに品質の改善等の研究指導を行い、これら工業の振興発展に寄与することを目的に設置された。

## (1) 沿革

昭和 9年(1934)	4月	技術指導機関として木工，窯業，農産加工を含む旭川市立産業指導所が設置される。
昭和18年(1943)	3月	第二次世界大戦のため，産業指導所を廃止する。
昭和21年(1946)	1月	業界の要望，地域の特殊性を生かすため常磐公園内に旭川市窯業指導所が設置される。
昭和23年(1948)	10月	旭川市共同作業所が設置される。
昭和30年(1955)	4月	旭川市共同作業所を廃止して旭川市木工芸指導所が設置される。
昭和42年(1967)	4月	施設狭あい等の理由により，窯業指導所を木工芸指導所敷地内へ新築移転する。
昭和51年(1976)	5月	木工芸指導所，窯業指導所を統合し旭川市工芸指導所と改称する。
平成 8年(1996)	4月	工芸指導所の施設設備の老朽化が著しく，「豊岡3条3丁目」から現在地に移転する。
平成 9年(1997)	12月	旭川市工芸センターと改称する。
平成11年(1999)	11月	町名変更及び住居表示の実施により所在地住所が「旭神町1番1347」から「緑が丘東1条3丁目1番6号」に変わる。
平成20年(2008)	5月	機構改革により「商工観光部工芸センター」から「経済観光部ものづくり推進室工芸センター」となる。
平成23年(2011)	4月	ものづくり推進担当部長の配置及びものづくり推進室の廃止により，「経済観光部工芸センター」となる。
平成26年(2014)	4月	係を廃止し，スタッフ制となる。
平成30年(2018)	4月	観光スポーツ交流部の新設に伴い，「経済観光部工芸センター」から「経済部工芸センター」となる。

## (2) 施設

位 置	旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号	旭川リサーチセンター内
敷地面積	10,315.70㎡	
延床面積	5,520.905㎡(うち工芸センター	1,825.25㎡)

### 【内訳】

事務室	101.13㎡	集塵室	56.60㎡
ミーティング室	33.94㎡	窯業研究室	192.69㎡
技術開発室	203.40㎡	材料試験室	50.05㎡
機械加工室	363.93㎡	製品試験室	55.14㎡
合板庫	30.60㎡	コンピュータ室	67.06㎡
資材庫	96.00㎡	会議室	79.46㎡
塗装室	55.00㎡	ショールーム	163.61㎡
木材乾燥スペース	65.02㎡	その他	140.78㎡
接着金工室	70.84㎡		

### (3) 組織

機構	1 課 (スタッフ制)	11 人	企画調整 庶務 情報収集提供 販売促進支援 技術指導 人材育成 技術開発 製品開発 試験分析
経済部長	_____	工芸センター 所長	_____
			スタッフ (10 人)
嘱託職員(技術指導)		1 人	
嘱託職員(機械保守整備)		1 人	

### (4) 運営委員会

当所の円滑な運営を図り、関係業界、有識者等の意見を反映するため、旭川市の附属機関として旭川市工芸センター運営委員会を設置しており、平成29年度は平成29年10月10日に開催した。

業界代表		学識経験者	
旭川家具工業協同組合	長谷川将慶	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場	関 一人
〃	関口 洋平	北海道立旭川高等技術専門学院	佐藤 勝幸
旭川建具事業協同組合	児玉 好正	東海大学	笹川 寛司
旭川地方木材協会	三津橋 央	国立大学法人 北海道教育大学旭川校	岩永 啓司
旭川木のモノ組合	高橋 秀寿	北海道インテリアコーディネーター協会	渋谷あずさ
旭川陶芸協会	滝野沢泰子		

※ 任期 平成 29 年 12 月 1 日から平成 31 年 11 月 30 日までの 2 年間

### (5) 主要設備

#### 【試験研究用機械】

3 次元 CAD/CAM システム	椅子強度性能試験機	UV 塗装乾燥試験炉
5 軸制御 NC ルータ実験機	形状粗さ測定器	振動試験装置
体圧分布測定システム	材料接合部強度試験機	恒温恒湿環境試験機
家具強度試験機	耐光性試験機	家具等繰返し耐久性試験機

#### 【加工機器】

各種汎用木工機械	側圧付コールドプレス	高周波発信機
炭酸ガスレーザー彫刻システム	カットボーリングマシン	木工用ロクロ
ワイドベルトサンダー		

#### 【窯業機器】

真空土練機	電動ロクロ	上蓋式電気炉
ボールミル	機械ロクロ	ガス炉実験機
ポットミル	電気窯	耐火度試験機
フィルタープレス	ガス窯	電動タタラ板製造機

## (6) 使用料及び手数料

## ① 使用料

設 備		1件の単位 (時間)	使用料 (円)	設 備		1件の単位 (時間)	使用料 (円)
木 工 機 械	帯のこ盤	1	310	木 工 機 械	ストロークサンダー	1	480
	高速度単軸面取盤	1	300		プレス機	1	1,200
	卓上ボール盤	1	270		5軸制御 NC ルータ実験機	1	3,150
	リンク式横切丸のこ盤	1	320		炭酸ガスレーザ彫刻システム	1	2,430
	高速丸のこ盤	1	310		ワイドベルトサンダー	1	1,100
	角のみ盤	1	280		長円ほぞ取機	1	570
	ダボ孔ボーリングマシン	1	470		自動長穴明機械	1	520
	手押かんな盤	1	310		コーナーロッキングマシン	1	520
	自動かんな盤	1	370		糸のこ盤	1	290
	4軸ほぞ取盤	1	390		試 験 機 器	耐光性試験機	1
	エッジベルトサンダー	1	420	恒温恒湿環境試験機(大)		24	5,310
	リップソー	1	360	恒温恒湿環境試験機(小)		24	1,390
	4点式万能帯のこ盤	1	350	家具強度試験機		1	720
	高周波加熱装置	1	740	振動試験装置		1	4,350
	そで付昇降盤	1	470	窯業 機械		電動ロクロ	1
	高周波ルータ	1	630		真空土練機	1	150
	カットボーリング面取機械	1	730				

## ② 手数料

業 務		1件の単位	手数料 (円)	業 務		1件の単位	手数料 (円)
木 材 木 質 材 試 験	強度試験	5試片(料)まで	610	塗料及び 塗膜試験	塗膜強度試験	1条件5試料まで	270
	含水率測定	1条件5試片(料)まで	370		耐摩耗試験	5,000回ごと	280
接着力試験		1条件5試片(料)まで	610	振動試験		1条件	31,500
製 品 性 能 試 験	繰返し荷重試験	4,000回ごと	1,760	その他の木工関連試験		31,500円以内で その都度市長が定める	
	繰返し衝撃荷重試験	4,000回ごと	1,760				
	静的強度試験	1条件	830	窯業試験 ・調整	吸水試験	1試料	330
	衝撃試験	1条件	830		強度試験	1試料	530
	耐久性試験	12,500回ごと	3,680		乾燥試験	1試料	210
恒温恒湿処理試験(大)		1日	5,580	材料調整		1kg	680
恒温恒湿処理試験(小)		1日	1,670	その他の業務		31,500円以内で その都度市長が定める	
恒温水槽試験		1日	300				
試験分析成績証明書		1件又は1通	210				

## 2 技術指導・各種相談

企業からの依頼に応じ技術・設備・管理計画等の個別課題に関し、次のとおり指導・相談を行った。

技術指導・技術相談の内容	技術指導	相談
木材乾燥関連	1	1
コンピュータ関連技術	27	14
デザイン関連技術	1	2
木材加工技術（木材加工等）	21	10
接着接合・塗装技術	6	3
材料強度関連	0	1
製品の品質、性能に関する技術（JIS試験等）	9	16
窯業技術（釉薬、成型、焼成）	9	6
その他（補助金申請支援、加工過程、研究支援、展示会支援 他）	2	35
計	76	88

※技術指導には巡回技術指導・外部講師による企業実地指導を含む。

## 3 機械設備使用・試験分析業務

### (1) 機械設備使用

設備名		件数	時間	設備名		件数	時間
木工機械	帯のこ盤	58	88	木工機械	高周波ルータ	41	61
	高速度単軸面取盤	17	17		ストロークサンダー	2	2
	卓上ボール盤	2	3		プレス機	1	1
	リンク式横切丸のこ盤	47	55		5軸制御NCルータ実験機	54	113
	高速丸のこ盤	48	71		炭酸ガスレーザ彫刻システム	102	185
	角のみ盤	8	8		ワイドベルトサンダー	92	101
	ダボ孔ボーリングマシン	2	5		長円ほぞ取機	6	11
	手押かんな盤	83	120		コーナーロッキングマシン	3	8
	自動かんな盤	103	113		糸のこ盤	9	26
	エッジベルトサンダー	32	45		その他	真空土練機	4
	リップソー	50	55	耐光性試験機		2	12
	4点式万能帯のこ盤	5	8	振動試験装置		1	1
	そで付昇降盤	178	297				
	総件数		950件	総時間	1,416時間		

### (2) 試験分析業務

業務内容	件数	業務内容	件数
・木材木質材試験		・製品性能試験 繰返し衝撃荷重試験 静的強度試験 衝撃試験 耐久性試験	46 280 99 169
強度試験	37		
含水率測定	12		
・接着力試験			
接着力試験	18	・塗料及び塗装試験 耐摩耗試験	9
・恒温恒湿処理試験			
恒温恒湿処理試験（小）	15		
・恒温水槽処理試験			
恒温水槽試験	0		
総件数		685件	

## 4 研修会・講習会・講演会

企業における総合的技術を備えた人材を育成するため、企業社員等を対象として技術・技能の基礎知識、応用技術、最新技術等について実践的講座等を開催した。

また、一般市民向けの講習会や、小学生・高校生を対象とした製作体験・学習会等を開催した。

事業名 研修名／講習会名	テーマ／内容	期 間	参加者数 (延べ)	講 師
ものづくりサマーキャンプ 木工コース (全2回)	(1回目) インターンシップ	H29.7.31 ～8.1	7人	(受入企業) 株式会社ササキ工芸, (有)杏和建具 株式会社ウッドパーツ
	工場見学	H29.8.2	35人	(見学企業) 株式会社カンディハウス, 株式会社コサイン 媚山鉄工株式会社, 吉峰鉄工株式会社
	(2回目) インターンシップ	H29.8.7 ～8.8	4人	(受入企業) 株式会社メーベルトーコー, (有)杏和建具 株式会社ササキ工芸
	工場見学	H29.8.9	27人	(見学企業) 株式会社いさみや, 山岡木材工業株式会社 株式会社エフ・イー, 株式会社長谷川工作所
旭川工芸技術等継承事業 家具実習コース (全7回)	椅子試作の技術及び工程 の理解	H29.10.4 ～11.15 (うち7日間)	75人	北嶺工匠 代表 吉田 幸男 氏 仁木木地製作所 代表 高橋 克徳 氏
旭川工芸技術等継承事業 建具実習コース (全3回)	伝統建具の製作技術につ いての理解 組子の製作技術について 「破れ麻の葉」	H30.2.6 ～2.8 (3日間)	12人	(有)杏和建具 代表取締役 高木 均 氏
旭川工芸技術等継承事業 座学コース (全4回)	伝統技術の継承 ～木彫の世界～	H29.7.27	23人	木彫ナカガワ 代表 中川 貞司 氏
	IFDA2017コンペ試作から 製品化へのプロセス	H29.9.6	44人	株式会社Hitoshi Makino Design 代表取締役社長 牧野 仁 氏 (有)ワカサ 代表取締役社長 若狭 弘典 氏
	スウェーデンの挽物師	H29.10.17	69人	スウェーデン在住木工旋盤作家 ウルフ・ヤンソン 氏 (通訳) スウェーデン交流センター 宮嶋 健夫 氏
	徳島家具の現状、富士フ ァニチアの取組 ～ものづくりの見える 化を目指して～	H30.2.8	34人	富士ファニチア株式会社 代表取締役社長 布川 徹 氏
旭川工芸技術等継承事業 市民向け講習会	旭川家具と木工体験	H29.10.21	9人	株式会社いさみや 代表取締役会長 関口 浩樹 氏 代表取締役社長 関口 洋平 氏 旭川家具工業協同組合 家具コンシェルジュ 渡邊 静代 氏 当所職員 千葉 甲 塩飽 大輔 猪川 達也

窯業講習会	陶と漆の関わり・金継ぎによる陶磁器の再生	H29. 9. 7	21人	漆芸家, 漆工芸品修復師, 金継ぎ師 藤田 丈裕 氏
窯業技術研修会 (全4回)	基礎釉・着色金属・焼成の組合せによる釉薬の発色	H29. 10. 18 ～11. 8 (うち4日間)	34人	当所職員 佐藤亜沙美
親子木工体験教室	旭川の木工業について加工体験 (ツール)	H30. 1. 13	18人	当所職員 小関 敬之 千葉 甲 塩飽 大輔 猪川 達也 板垣 和憲
計	23回開催	27日間	412人	—

## 5 販売促進支援事業

家具, 建具, 小木工及び窯業の各分野において, それぞれの企業が開発した新製品の紹介と地場産品の販路拡大を図る各種展示会の開催・出展支援を行った。

展示会名/テーマ等		開催期間	概 要
家具	国際家具デザインフェア旭川2017 デザインコンペティション 入賞入選作品展 応募国数 30か国・地域 応募点数 683点 入賞入選作品数 25点	H29. 6. 21～6. 25	会 場 旭川デザインセンターほか
		H29. 11. 20～11. 22	会 場 東京ビッグサイト
	IFFT/インテリアライフスタイルリビング	H29. 11. 20～11. 22	会 場 東京ビッグサイト 出展者数 10社 来場者数 16, 654人
小木工	旭川クラフト展 2017	H29. 6. 13～6. 25	会 場 デザインギャラリー チェアーズギャラリー 出展者数 86 者
窯業	第21回旭川陶芸フェスティバル ー自然にやさしく, 人にやさしくー	H29. 9. 23～9. 24	会 場 道北地域旭川地場産業 振興センター 出展者数 114窯 来場者数 10, 394 人

## 6 情報収集・提供事業

- (1) 平成29年度 事業報告書 200 部
- (2) 工芸ニュース 第81号 400 部
- (3) ホームページの拡充
- (4) クラフトマップのリニューアル

平成24年度から発行しているクラフトマップをより活用しやすくりニューアルするとともに, 海外からの観光客向けに, 英語版「Asahikawa crafts map」も併せて発行。

発行部数 日本語版 13, 000部 英語版 4, 000部 合計 17, 000部

- (5) 実態調査

旭川地域における木製家具・木製建具製造業の実態調査を行った。

調査内容	件 数
木製家具製造業実態調査	70
木製建具製造業実態調査	23
計	93



## 7 人材育成・販路開拓・製品開発支援事業（詳細はP8から掲載）

- (1) 旭川工芸技術等継承事業(実習コース・座学コース・市民向け講習会)
- (2) ものづくりサマーキャンプ
- (3) 親子木工体験教室
- (4) 窯業講習会
- (5) 窯業技術研修会
- (6) 道産カンパ類の高付加価値用途への技術開発
- (7) 国際家具デザインフェア旭川(IFDA)2017
- (8) 旭川クラフト展2017
- (9) 21st 旭川陶芸フェスティバル

## 8 受入研修

旭川地域の企業、教育・関係機関からの依頼に応じ、技術者、学生等の受入研修を行った。

学校名等	内 容	受入人数(人)
旭川家具工業協同組合	技能五輪国際大会家具職種研修	1
北海道旭川工業高等学校	インターンシップ	2
旭川地域企業	石膏型製作と鋳込み成形	2
旭川地域企業	鉋・ノミ等の手工具の仕込み方	1
旭川地域企業	釉薬について	1
計	—	7

※ 技能五輪国際大会の詳細については、P15に掲載。

## 9 職員派遣

関係機関・団体からの依頼を受けて、地域産業の振興と支援のため、職員を派遣した。

派 遣 先	派遣期間	派遣職員
国際家具デザインフェア旭川 開催委員会事務局	H28. 10. 1～H29. 7. 31 (10ヵ月)	猪川 達也

## 10 講師・審査員・委員等派遣

関係機関・団体等からの依頼を受けて、対象業界の活動を支援するため、職員を派遣した。

派 遣 先	派遣期間	派遣職員
林産試験場 北海道こども木工作品コンクール審査委員	H29. 9. 14	所長 三浦 雅仁

## 11 その他支援

- (1) 地域未来投資促進法に基づく基本計画認定

木製品製造業界が行う「地域ブランド確立・発信」、「海外マーケットへの進出・拡大」等の取組に対する国の支援措置活用を図るべく、39道府県70計画の一つとして、初認定を受けた。

ア 基本計画の対象となる区域：旭川市，東神楽町，東川町

イ 計画期間：平成29年9月29日から平成34年度末日まで

## 旭川工芸技術等継承事業

本事業は、実習コース、座学コース及び市民向け講習会からなる地域の人材育成事業であり、旭川地域で活躍している技術者に加え、全国的に活動しているデザイナーや技術者などを講師として招へいし、「地域の技術者から若手へ、地域の技術者からユーザーへ」をキーワードに、様々な講習会を開催した。

### ● 家具実習コース

椅子の製作方法を習得することを目的として、7回の実習を行った。

- 1 テーマ 椅子試作の技術及び工程の理解
- 2 内 容 ウィンザータイプのロッキングチェアにおける設計から製品に組み上げるまでの工程全般
- 3 開催日時 平成29年10月4日(水)～11月15日(水) (うち7日間) 18:00～21:00
- 4 会 場 工芸センター 機械加工室
- 5 受講者数 8人(8企業) 7日間 延べ75人
- 6 講 師 吉田 幸男 氏 (北嶺工匠 代表)  
高橋 克徳 氏 (仁木木地製作所 代表)



実習風景



実習風景

### ● 建具実習コース

伝統建具の製作技術を理解することを目的として、3回の実習を行った。

- 1 テーマ 伝統建具の製作技術についての理解
- 2 内 容 組子製作「破れ麻の葉」の手法全般
- 3 開催日時 平成30年2月6日(火)～2月8日(木) 3日間 13:00～17:00
- 4 会 場 工芸センター 機械加工室
- 5 受講者数 4人(4企業) 3日間 延べ12人
- 6 講 師 高木 均 氏 (侑杏和建具 代表取締役)



実習風景



実習風景

● 座学コース

製作技術だけでなく幅広い分野の知識・情報の習得のため、テーマごとに専門家を招へいし、講習会を開催した。

第1回目：伝統技術の継承～木彫の世界～

- 1 内 容 木彫実演，各地で実演を行う意義，買い手が望む木彫の過去と現在の違いなど
- 2 開催日時 平成29年7月27日（木）18:30～20:30
- 3 会 場 工芸センター 機械加工室（旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号）
- 4 受講者数 23人（8企業・1団体）
- 5 講 師 中川 貞司 氏（木彫ナカガワ 代表）

第2回目：IFDA2017 コンペ試作から製品化へのプロセス

- 1 内 容 デザイナーとしての心構え，コンペにおけるデザインの発想と着眼点，コンペ試作品製作に向けたデザイナーと作り手のやりとり，製品化に向けた道筋と今後の目標
- 2 開催日時 平成29年9月6日（水）18:30～20:30
- 3 会 場 リサーチセンター 研修室（旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号）
- 4 受講者数 44人（18企業・団体）
- 5 講 師 牧野 仁 氏（株Hitoshi Makino Design 代表取締役社長）  
若狭 弘典 氏（有ワカサ 代表取締役社長）

第3回目：スウェーデンの挽物師

- 1 内 容 木工旋盤の加工・バイト（刃物）研ぎの実演，木工旋盤の数学的知識の解説，木工旋盤での作品制作のポイント，作品の紹介とデザインの解説
- 2 開催日時 平成29年10月17日（火）18:30～21:00
- 3 会 場 工芸センター 機械加工室（旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号）
- 4 受講者数 69人（26企業・団体）
- 5 講 師 ウルフ・ヤソフ 氏（スウェーデン在住木工旋盤作家）  
宮嶋 健夫 氏（通訳：スウェーデン交流センター）

第4回目：徳島家具の現状，富士ファニチアの取組～ものづくりの「見える化」を目指して～

- 1 内 容 富士ファニチアの製品と納入事例，業務改善（情報の一元化，一品生産への転換）に至った経緯，「見える化」を達成するために取り組んだこと，今後に向けた事業計画
- 2 開催日時 平成30年2月8日（木）18:30～20:30
- 3 会 場 リサーチセンター 研修室（旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号）
- 4 受講者数 34人（12企業）
- 5 講 師 布川 徹 氏（富士ファニチア(株) 代表取締役社長）



中川氏  
(第1回)



牧野氏と若狭氏  
(第2回)



ウルフ氏  
(第3回)



布川氏  
(第4回)

## ● 市民向け講習会

地域の方々に地場の木製品に対する知見を広げていただくため、講習会「旭川家具と木工体験」を開催した。

- 1 内 容 工場見学ツアー  
木製計量スプーンの製作体験
- 2 開催日時 平成 29 年 10 月 21 日（土）9:00～17:00
- 3 見学先 (株)いさみや（旭川市永山北 2 条 9 丁目 1 番 2 号）  
旭川デザインセンター（旭川市永山 2 条 10 丁目 1 番 35 号）
- 4 製作体験場所 工芸センター
- 5 受講者数 9 人



工場見学の様子



ショールーム見学の様子



製作体験の様子

## ものづくりサマーキャンプ

旭川地域の高校生を対象に、ものづくり企業への就業体験を通して地域の産業への理解を深め、進路の選択肢の1つとして定着させることを目的とした「ものづくりサマーキャンプ事業」を工芸センター（木工コース）と工業技術センター（機械コース）で開催した。

2クール実施し、1日目、2日目は木工・鉄工のものづくり現場に赴き、従業員と一緒に作業を行う「インターンシップ」を行い、最終日は木工・鉄工の両業種を訪問する「工場見学ツアー」を行った。



就業体験の様子

- 1 開催日時 第1回 平成 29 年 7 月 31 日（月）～8 月 2 日（水）（3 日間）  
第2回 平成 29 年 8 月 7 日（月）～8 月 9 日（水）（3 日間）  
※ 各日 9:00～17:00
- 2 受入企業 木製品：(株)ササキ工芸，(有)杏和建具，(株)ウッドパーツ，(株)メーベルトーコー  
鉄工業：(株)北日本工業所，ヒグマ乾燥機(株)，(株)エフ・イーほか全 17 社
- 3 見学企業 木製品：(株)カンディハウス，(株)コサイン，(株)いさみや，山岡木材工業(株)  
鉄工業：吉峰鉄工(株)，媚山鉄工(株)，(株)エフ・イー，(株)長谷川工作所
- 4 受講者数 73 人（第 1 回 42 人，第 2 回 31 人）

## 親子木工体験教室

日本有数の家具産地にも数えられている旭川地域（旭川市，東川町，東神楽町）への理解を深めてもらうことを目的とし，親子を対象に家具の製作体験や地域の家具産業についての学習等を一体的に実施する体験教室を実施した。

- 1 内 容 スツールの製作，加工実演  
小学生向け地域の木工産業の講習
- 2 開催日時 平成 30 年 1 月 13 日（土） 10:00～14:40
- 3 会 場 工芸センター 会議室・機械加工室
- 4 受講者数 18 人（小学校 4 年生以上の児童とその保護者 9 組）
- 5 講 師 工芸センター職員



木工産業の講習



製作体験の様子



製作体験の様子

## 窯業講習会

陶芸をより魅力的なものにする関連技術について知識を深め，作陶の幅を広げることを目的に，陶磁器製造業関係者を対象とした講習会を開催した。

講師に東川町を拠点に活動している漆芸家，漆工芸品修復師，金継ぎ師の藤田丈裕氏を迎え，割れた陶磁器を漆で継ぎ，蒔絵を施す金継ぎ技術について，実演を交えた講義を実施した。

金継ぎは，日本特有の美意識と，ものを大切にする精神から生まれたもので，傷をあえて美しく際立たせることにより新たなデザインを加え，陶磁器をより魅力的に蘇らせる技法であり，受講者は，金継ぎの技術を間近で見ることで，多くの驚きや発見があったようだ。



講師による金継ぎの実演

- 1 テー マ 陶と漆の関わり・金継ぎによる陶磁器の再生
- 2 内 容 金継ぎの工程（接着，下地，中塗り，蒔絵）の講義・実演
- 3 開催日時 平成 29 年 9 月 7 日（木） 18:30～20:30
- 4 会 場 工芸センター 窯業研究室
- 5 受講者数 21 人（17 窯・企業）
- 6 講 師 藤田 丈裕 氏（漆芸家，漆工芸品修復師，金継ぎ師）

## 窯業技術研修会

この研修会は、旭川地域の窯業技術向上と技術者育成に向けた技術・知識習得を目的として毎年開催しており、今年度は、釉薬の発色に影響を及ぼす「基礎釉の組成」「着色金属の種類と添加量」「焼成雰囲気」について体系的に理解を深め、ねらいどおりの発色を得られるよう、調合や焼成の手法を身につけることを主軸に、着色補助材及び乳濁材のはたらきやゼーゲル式による釉調の考察、伝統的釉薬の成り立ちなど、釉薬について総合的な研修を行った。

受講者各々が日頃の作陶で抱える課題や目標に向かって主体的にテーマを考え、それぞれが自分に合った手法で研修に取り組むことができ、最終日には多種多様なテストピースを前に、受講者間で活発な情報交換が行われたほか、当センターのテストピース焼成結果により、普段は使用される機会が少ない着色金属の発色例を観察するなど、無限に広がる発色の可能性を感じてもらった。



実習風景

- 1 テーマ 基礎釉・着色金属・焼成の組合せによる釉薬の発色
- 2 内容 基礎釉・着色金属・乳濁材の概要、ゼーゲル式、基礎釉・着色金属・焼成の組合せによる釉薬の発色確認（当センターテストピース概要）、各自の目標に向けた実験手法の検討、テストピース製作、実験結果の考察と発表
- 3 開催日時 平成 29 年 10 月 18 日（水）～11 月 8 日（水）（うち 4 日間 延べ 10 時間）
- 4 会場 工芸センター 窯業研究室
- 5 受講者数 10 人（10 窯） 4 日間 延べ 34 人

## 道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発

多くがパルプ原料になっているシラカバ材の有効活用について、平成 27 年度から 3 年間、北海道立総合研究機構林産試験場との共同研究に取り組んだ。工芸センターでは、材料強度（曲げ強さ等）や接合部強度の測定、試作品の製作及び強度試験を担当した。

試作品は、札幌の展示会などで紹介を行った。ナラ材などと比較すると強度は劣るため、構造や仕口寸法・精度には注意が必要だが、家具用材として十分に活用できるのではないかとされる。

この共同研究は平成 29 年度で終了するが、今後も性能評価をはじめ、地域材の利活用に向けた取組は継続していく予定である。



今年度試作品（札幌での展示会）

### <平成 29 年度実施試験>

#### ● 部材の強度試験（曲げ強さ、接着剤の圧縮せん断接着強さ）

曲げ強さについては、ナラ材との比較で約 20%低い値となったが、値自体は決して低いものではなく、強度が求められる椅子等にも活用できるレベルにあるものと考えられる。

圧縮せん断接着強さについては、破断率は 90%と非常に高く、接着性に問題はないことを確認した。しかし、圧縮せん断接着強さは、ブナとの比較で約 40%低い結果となり、目切れするような部材としての使用、ホゾが抜ける際の木破や内部応力変化などに不安が残る結果となった。

## 国際家具デザインフェア旭川 (IFDA) 2017

新しい生活文化の提案と発信を目的として、1990年に始まった「国際家具デザインフェア旭川 (IFDA)」は、旭川家具工業協同組合、旭川市、東神楽町、東川町などが主催する地域を挙げてのデザインイベントであり、今回で節目となる10回目の開催を迎えた。

メイン事業である木製家具のデザインを公募するデザインコンペティションでは、世界30か国・地域から寄せられた683点の応募作品から、6点の入賞作品と19点の入選作品が選ばれた。これらの作品は、「デザインコンペティション入賞入選作品展」で、建築家 五十嵐淳氏のブースデザインにより展示発表が行われた。

その他、IFDAの30年を振り返る特別企画展「IFDAのあゆみ」をはじめ、出展メーカー・団体の新作・新提案の発表「旭川家具エキシビション」、デザインコンペティション作品プレゼンテーション、IFDA記念パネルディスカッションのほか、併催イベントとして、織田コレクションと旭川ほか4つの展覧会や、旭川クラフト展2017、「建築を永く使い続けること」展など、様々な催しが行われた。



IFDAのあゆみ  
(旭川デザインセンター)  
上：IFDA30年の軌跡展  
下：IFDA記念制作展

- 1 会 期 平成29年6月21日(水)～6月25日(日)
- 2 会 場 旭川デザインセンター(旭川市永山2条10丁目)ほか
- 3 来場者数 約19,500人
- 4 主 催 国際家具デザインフェア旭川開催委員会

## 旭川クラフト展2017

旭川地域のクラフト製品を一堂に集めて展示することで、地域住民や多くのバイヤー・メディアなどに本地域や産業の魅力を広め、業界振興を図ることを目的に、「旭川クラフト展2017」がデザインギャラリーとチェアーズギャラリーにて開催された。

今回の展示会では、プロだけでなく、新たに「チャレンジ枠」として木工クラフト・工芸品・家具の製作を営む企業の従業員や、クラフトマンを志している学生が参加し、プロ枠66者、チャレンジ枠20者の計86者の出展となった。ベテラン職人と若き職人が、世代や業種を超えて作り手同士の交流を深めることで、より魅力的なものづくりの産地として発展していこうという思いが込められており、会場内にはクラフトの歴史を時事とともに紹介するバナーが設置されるとともに、クラフトが誕生してから今日に至るまでの流れを楽しむことが出来るよう、ブースを工房を始めた年代順に並べることで、木彫や旋盤等から始まり、素材や商品に多様性が生まれ今に至っているクラフトや作り手の歴史を感じられる展示となった。

78人が参加したトークイベントでは、岩間幹雄氏(工房がんま)から「旭川の木彫の歴史」、高橋秀寿氏(高橋工芸 代表)から「旭川のクラフトの歴史」についての講演があり、トークイベント終了後の情報交換会では、学生からの質問に答えるなど、交流を深めていた。

また、小さな子供でもものづくりを体験できるワークショップも開催され、来場者を楽しませるとともに、ものづくりを身近に感じてもらえるきっかけとなった。

- 1 会 期 平成 29 年 6 月 13 日（火）～25 日（日） 9:00～18:00
- 2 会 場 デザインギャラリー，チェアーズギャラリー（旭川市宮下通 11 丁目）
- 3 出展者数 86 者
- 4 来場者数 5,038 人
- 5 主 催 旭川クラフト展 2017 実行委員会



デザインギャラリー



チェアーズギャラリー

## 21st 旭川陶芸フェスティバル

「自然にやさしく，人にやさしく」をテーマに，やきものの普及と愛好家の拡大，やきものが持つ人と環境に対するやさしさへの理解を深めてもらうことを目的に，旭川やきもの協会の主催で毎年 9 月に開催され，展示販売のほか様々な催しが行われた。

ろくろ実演では，窯元の技に見入る来場者で人垣ができ，陶芸体験では多くの親子連れが手びねりで思い思いの作陶を楽しんだ。チャリティー福袋は，販売開始から数分で完売する盛況ぶりで，収益金は熊本地震義援金として熊本県へ全額寄付された。

特別企画展では，毎日のティータイムを華やかに演出するマグカップを多数集めた「ふだんづかいのマグカップ展」を開催し，シンプルで手になじみやすいものから，ユーモア溢れる一点ものまで，各窯元の自信作が目白押しの見ごたえある展示となり，目移りしながらお気に入りのカップを手にする来場者の姿も見受けられた。

また，昨年度に続き，子供たちに土に触れる楽しさを感じてもらうことを目的に，「小学生対抗 伸ばして積んでつんで競争」と題した，粘土を高く積み上げる競争を実施し，小学生の無邪気かつ真剣な姿に，会場内は大きく盛り上がった。

- 1 会 期 平成 29 年 9 月 23 日（土），24 日（日） 10:00～17:00（24 日は 16:00 で終了）
- 2 会 場 旭川地場産業振興センター（旭川市神楽 4 条 6 丁目 1 番 12 号）
- 3 出展者数 114 窯
- 4 来場者数 10,394 人
- 5 主 催 旭川やきもの協会 旭川陶芸フェスティバル実行委員会



ろくろ実演



ふだんづかいのマグカップ展



伸ばして積んでつんで競争



## 技能五輪国際大会

技能五輪国際大会については、2年に1度開催されているが、平成28年度に行われた技能五輪全国大会銀メダリストである下條恭平氏（有ワカサ所属）の受入依頼があったことから、5月上旬から10月上旬までの約5か月間、工芸センターにて受入研修を実施した。

### ●研修内容

初めは鑿、手鋸など手加工の指定がある蟻組や、電動工具を使った部材加工、扉部等の突板貼りなど部分練習を中心に行い、課題が絞られた後は完成までの時間配分を見るため、通し練習を主に行った。研修期間中は前大会までエキスパートであった帯広高等技術専門学院の吹谷氏や今大会のエキスパートであるものづくり大学の佐々木准教授も月1回程来所し、採点評価を意識した練習を行った。また過去の大会経験者や地域のベテラン木工職人からも技術的な助言を受けることで研修内容を充実させることが出来た。



アドバイスを受ける下條選手

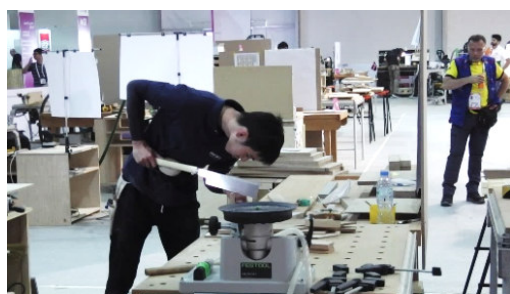
### ●大会結果

今回の国際大会は、アラブ首長国連邦（UAE）の首都アブダビで開催され、競技は10月15日から18日までの4日間・22時間で課題のキャビネットを仕上げるものであった。

課題は台湾エキスパートの設計、競技2日前に当初図面から30%変更された。変更箇所はおよその寸法と形状以外まんべんなく変わっており、かなり大きな変更と感じられた。

結果は、29か国・地域の選手が参加する中で、下條選手は14位と、近年入賞が果たせなかった家具職種において敢闘賞を受賞することが出来た（金メダルは台湾とスイス）。

上位選手の動きに共通していたのは、加工手順が頭の中に構築され無駄な動きが少ないこと、電動工具の使い方、特にテーブルルーターの様々な使い方について習熟している感じを受けた。また、かなりの選手が日本製の鋸や鑿、鉋などを持って来ていたことも印象的であった。



手鋸作業



各国の選手とともに

発行：旭川市工芸センター

---

〒078-8801

北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

TEL：(0166) 66-1770 FAX：(0166) 66-1776

URL：<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/364/365/369/d053192.html>

e-mail：[kougeicenter@city.asahikawa.lg.jp](mailto:kougeicenter@city.asahikawa.lg.jp)